

既存コンクリートコア抜き作業を行うにあたって（参考）

調査については、以下の点について留意する。

なお、本資料は参考扱いであり、調査関係者の自主的な安全管理のもと、内容の確認または内容の追加を行い、作業にあたるものとする。

■所有者に確認する事項

- ①作業用の水と電源に関して、借用の必要がある場合は、有償か無償かを含めて事前に所有者に確認する。電源を借用する場合、電源の容量、使用量がどの程度か事前に確認する。
確認内容について調査計画書に記載する。
- ②作業当日、室内への出入りの許可、確認方法、駐車場の使用について、事前に確認すること。
- ③作業後の清掃方法について説明を行い、事前に所有者の了解を得る。
- ④作業当日の緊急連絡体制を事前に確認する。
- ⑤作業後のコア抜き復旧方法（仕上げ含む）について説明し、事前に所有者の了解を得る。
- ⑥調査個所の復旧後について、立会いのもと、復旧確認、清掃状態について、所有者の了解を得る。

■コア採取位置の検討時に関する留意事項

- ①漏水の原因となるような部位からコア抜きしない。
- ②配線等を切断しないよう、事前に既存資料調査、現地調査を十分に行う。また、切断の危険が予見される箇所（コンセントの近傍など）では計画しない。
- ③事前に鉄筋探査により内部の鉄筋状況を確認し、コア採取位置の変更や、コア再採取に対応できるように、探査範囲はある程度大きめに行う。

■調査当日に留意する事項

- ①調査当日は、診断技術者等が立ち会うものとする。
- ②コアマシンのセットは、真空吸着盤式にて行う。ただし、仕上げ材の割れ、はがれの発生が予想される場合や、吸着盤が付かない場合は、協議の上、アンカー式とする。
- ③コアマシンは、メタルセンサー付きのドリルを使用するものとする。
- ④電源を借用する場合は、作業前後のコンセントの状況を写真に撮り、作業により故障（通電不能やコンセントボックスの焼け）が生じていないことを記録する。
- ⑤作業で使用した冷却水（泥水）は持ち帰るものとする。
- ⑥万一、配線切断等の事故が起きた場合は、速やかに管理技術者、担当技術者に報告を行う。
- ⑦調査個所について復旧前後の状況を写真に記録する。